

福島経済マンスリー

7月の県内経済は、一部に弱い動きがみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。

1. 平成27年7月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、生産活動や消費動向の一部、公共投資などの投資動向に弱い動きがみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。		
消費動向	大型小売店販売額は、合計では4ヵ月連続して前年比で増加した。一方、新車登録台数は、16ヵ月連続で前年を下回った。		
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が3ヵ月連続、保証金額と請負金額は2ヵ月ぶりでいずれも前年を下回った。		
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数が7ヵ月ぶりで前年を上回ったものの、床面積と工事費予定額が2ヵ月連続で前年を下回った。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は4ヵ月ぶりで前年を下回ったものの、水準はほぼ横ばいで推移している。内訳をみると、持家が3ヵ月連続で前年を上回ったが、分譲が2ヵ月連続、貸家が4ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、前月比が5ヵ月ぶりで前年を上回ったが、前年比が9ヵ月連続で下降した。業種別の前月比をみると、13業種で上昇し、6業種で下降した。		
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月を0.06ポイント、原数値が前年を0.05ポイントそれぞれ上回った。一方、雇用保険受給者実人員は22ヵ月連続で前年を下回った。		

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。したがって、足元の動向を示す「コメント」と「景況判断」は異なる場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は6月データ。

〈天気図（水準）の意味〉

晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨

良
い
悪
い

2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		27年2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	6.9	△ 6.4	8.7	6.0	0.7	2.5
	乗用車新車登録台数	△ 21.0	△ 15.0	△ 8.1	△ 9.6	△ 7.5	△ 17.6
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	259.8	△ 25.5	30.9	△ 29.9	15.5	△ 44.7
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	△ 31.4	27.5	69.0	△ 17.2	△ 16.4	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	△ 30.7	△ 21.3	34.3	26.0	12.3	△ 14.4
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注1}	△ 2.0	△ 8.4	△ 2.6	△ 8.5	△ 5.7	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注1}	0.16	0.06	0.04	0.03	0.00	0.05
	雇用保険受給者実人員	△ 13.1	△ 12.5	△ 13.4	△ 12.7	△ 3.6	△ 4.2

注1 原指数

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		27年2月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	△ 8.9	12.3	△ 5.9	6.3	△ 5.7	1.0
	乗用車新車登録台数	17.3	66.3	△ 56.3	1.5	26.6	△ 11.2
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	129.2	△ 2.0	△ 6.7	△ 37.5	118.9	△ 44.2
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	△ 16.6	1.1	△ 35.8	△ 20.7	44.2	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	36.9	△ 16.3	31.5	16.1	14.7	△ 15.0
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注2}	△ 1.8	△ 1.3	△ 3.4	△ 3.6	1.4	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注2}	△ 0.03	△ 0.09	0.01	0.01	△ 0.02	0.06
	雇用保険受給者実人員	0.5	1.6	△ 1.7	8.4	11.3	0.3

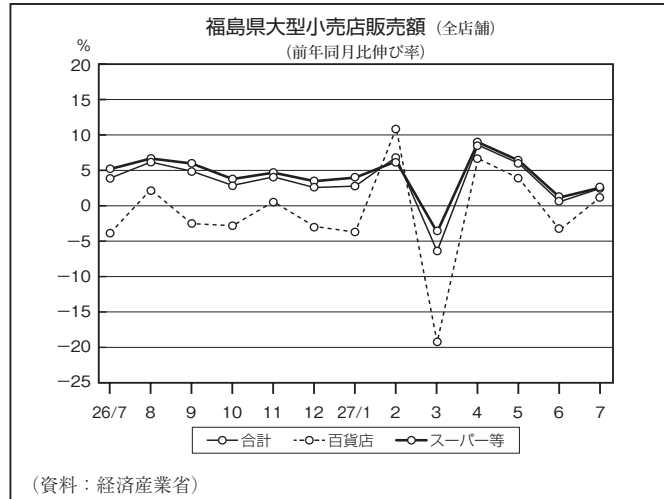
注2 季節調整値

3. 県内経済動向

消費動向

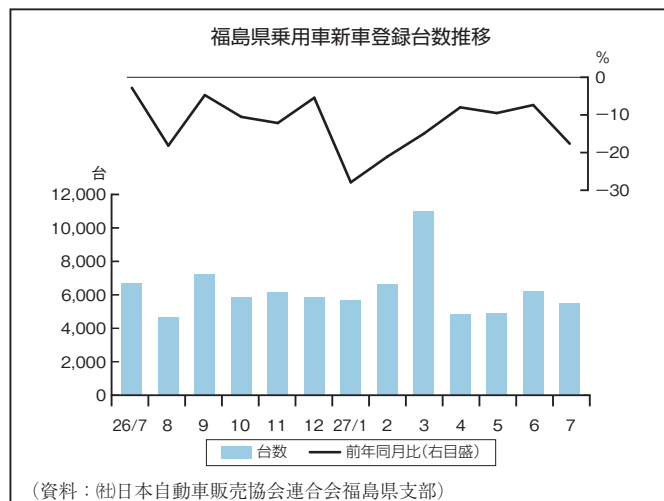
大型小売店：4ヵ月連続で前年比増

7月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で207億24百万円（前年同月比+2.5%）と4ヵ月連続で前年を上回った。業態別で見ると、百貨店は、飲食料品などが前年を上回り、合計では同+1.3%となった。また、スーパーも、飲食料品と衣料品が前年を上回ったことなどから、合計では同+2.6%となった。



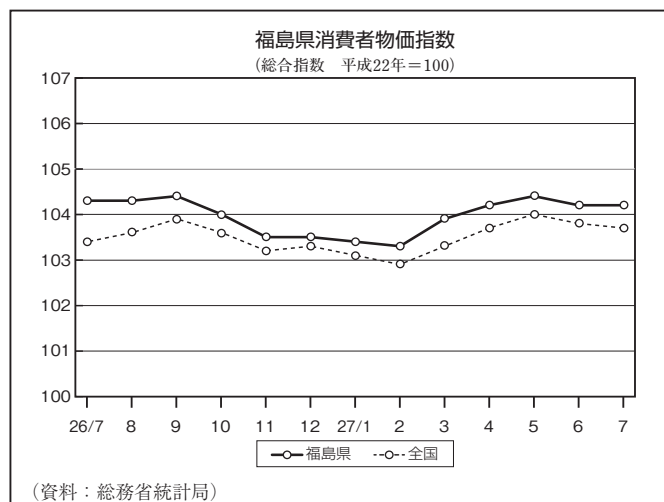
乗用車販売：16ヵ月連続で前年比減

7月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で5,484台（前年同月比△17.6%）となり、16ヵ月連続で前年を下回った。車種別で見ると、普通車が1,840台（同△6.6%）と2ヵ月ぶり、小型車が1,875台（同△13.4%）と2ヵ月連続、軽乗用車が1,769台（同△29.9%）と7ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。



消費者物価指数：前年比で下降

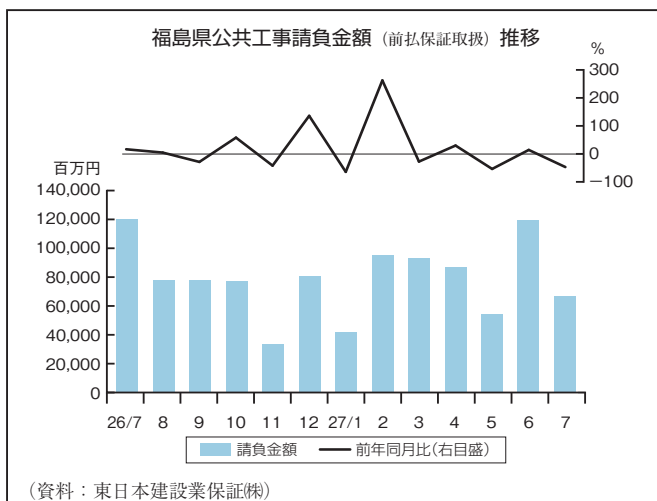
7月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）で見ると、104.2と前月比0.0%、前年同月比△0.1%となった。費目別に前月比で見ると、「教養娯楽」が99.1（前月比+2.7%）など4費目で上昇したものの、「被服及び履物」の101.8（同△2.3%）など3費目で下降した。



公共投資

公共工事：請負額は2ヵ月ぶりで前年比減

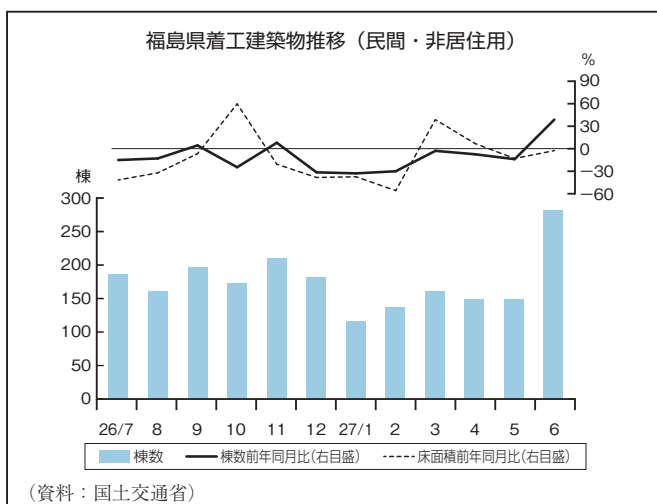
7月の公共工事前払保証取扱は、件数が904件（前年同月比△10.5%）と3ヵ月連続、保証金額が321億55百万円（同△51.3%）、請負金額が670億43百万円（同△44.7%）と2ヵ月ぶりでいずれも前年を下回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が2ヵ月連続で前年比減

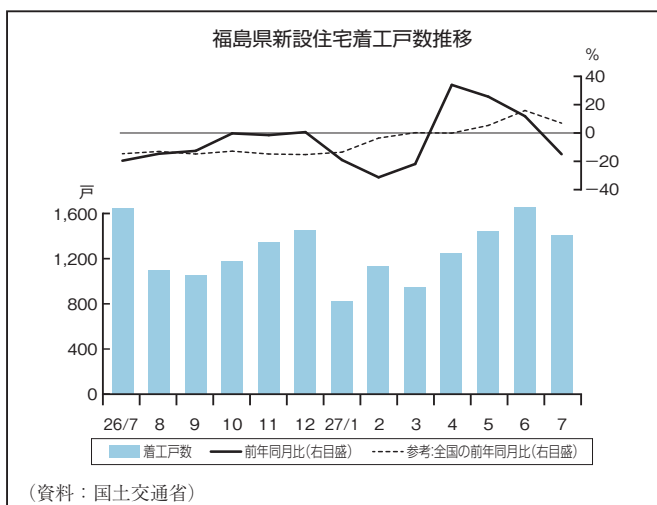
6月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が282棟（前年同月比+38.2%）と7ヵ月ぶりで前年を上回ったものの、床面積が133,824㎡（同△2.7%）、工事費予定額が264億91百万円（同△16.4%）と、2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。



住宅投資

住宅建設：4ヵ月ぶりで前年比減

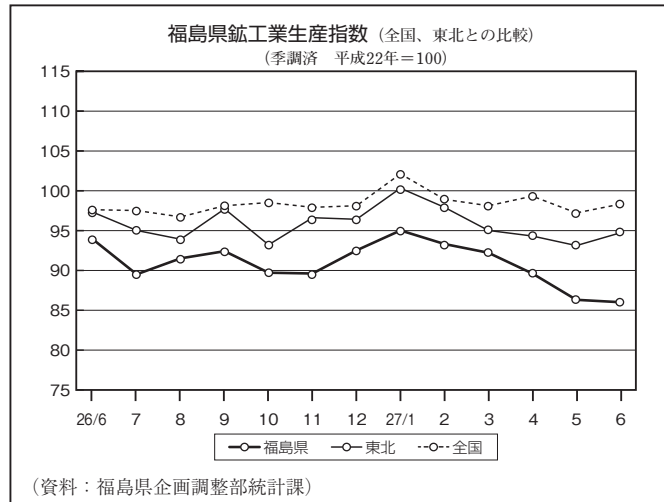
7月の県内新設住宅着工戸数は、1,410戸（前年同月比△14.4%）と4ヵ月ぶりで前年を下回った。主な利用関係別にみると、「持家」が675戸（同+17.8%）と3ヵ月連続で前年を上回ったものの、「分譲」が76戸（同△55.8%）と2ヵ月連続、「貸家」が658戸（同△26.7%）と4ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。



生産活動

鉱工業生産指数：前年比は下降、前月比は上昇

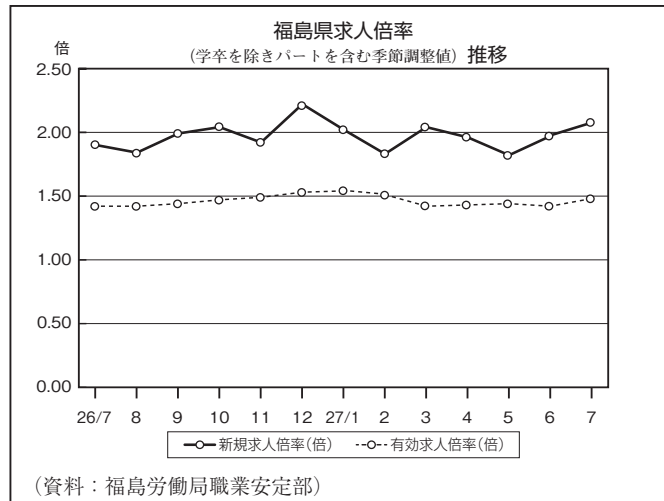
6月の鉱工業生産指数は、86.0（季節調整値）で前月比+1.4%と5ヵ月ぶりで前月を上回ったものの、原指数が92.0で前年比△5.7%と9ヵ月連続で前年を下回った。業種別の季節調整値をみると、「その他製品工業」（前月比+15.4%）など13業種で上昇したが、「繊維工業」（同△57.0%）など6業種で下降した。



雇用動向

雇用動向：雇用保険受給者は22ヵ月連続前年比減

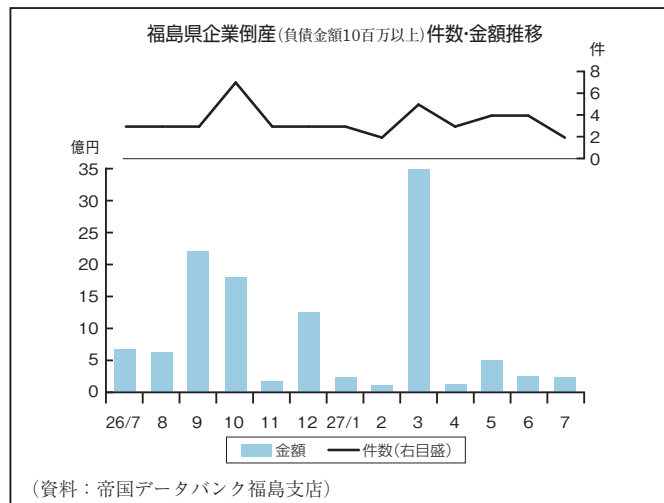
7月の新規求人倍率は、季節調整値が2.07倍（前月比+0.10ポイント）、原数値が2.32倍（前年同月比+0.22ポイント）となった。また、7月の有効求人倍率は、季節調整値が1.48倍（前月比+0.06ポイント）、原数値が1.45倍（前年同月比+0.05ポイント）となった。また、7月の雇用保険受給者実人員は7,005人（前年同月比△4.2%）と22ヵ月連続で前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：件数、負債総額とも前年比で減少

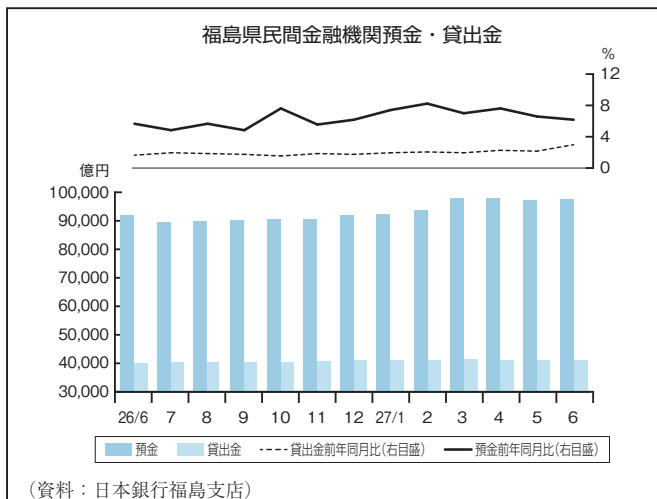
7月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が2件（前年同月比△33.3%）、負債総額が2億52百万円（同△64.9%）となり、件数、負債総額とも前年を下回った。業種別では、サービス業と製造業が各1件となった。



金融動向

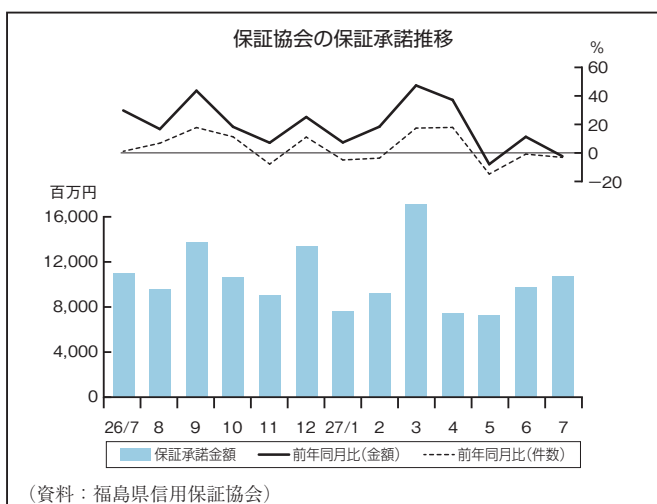
資金需給：預金、貸出金とも前年比で増加

県内金融機関（全国銀行、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の6月末の預金残高は、9兆7,739億円（前年同月比+6.0%）と8年4ヵ月連続、貸出金残高は、4兆1,234億円（同+2.9%）と25ヵ月連続で前年を上回った。



保証協会：代位弁済は件数、金額とも前年比増

7月の保証承諾は、件数が878件（前年同月比△3.3%）、保証金額が107億35百万円（同△2.5%）となった。また、7月末日現在の保証債務残高は、件数43,320件（同△8.3%）、金額3,794億13百万円（同△9.1%）となった。一方、7月中の代位弁済は、件数が44件（同+46.7%）、金額が4億18百万円（同+79.6%）となった。



4. 業種別動向

消費動向

家電量販店 7月の家電量販店の売上高は、エアコンやスマートフォンなどが前年を上回ったことから、合計では前年比で約15%増加した。

ホームセンター 7月のホームセンターの売上高は、カー用品や家電製品などが前年を上回ったことから、合計では前年を5%程度上回った。

旅行 6月の旅行取扱額は、国外が前年をわずかに上回ったものの、国内が低調だったことから、合計では前年実績を30%ほど下回った。

高速道路 7月の県内自動車道出入台数は、合計で5,542,904台（前年同月比+9.4%）と、8ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、常磐自動車道（いわき勿来IC～山元IC）は1,723,135台（同+35.8%）と17ヵ月連続、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は627,092台（同+4.0%）と4ヵ月連続、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,788,460台（同+1.1%）と16ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。一方、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は404,217台（同△7.8%）と10ヵ月連続で前年を下回った。

福島空港 7月の福島空港国内定期路線の利用状況は、21,422人（前年同月比△3.3%）と前年を下回っ

た。路線別にみると、札幌便は8,830人（同△8.5%）、大阪便は12,592人（同+0.7%）となった。
（国際定期路線は全便運休）

生産活動

化学 7月の食品包装フィルム用合成樹脂は、中国からの受注量減少による影響が続いていることなどから、合計でも前年を下回る生産水準で推移している。

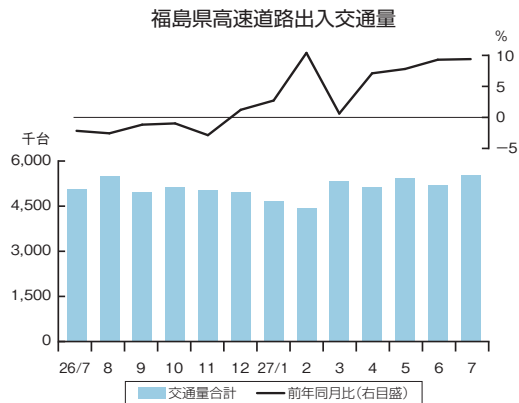
鉄鋼・金属 7月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が米国などの受注に伸び悩みがみられ始めたことなどから、前年を25%以上下回る生産水準となった。また、半導体向け電子材は、国内および中国など国外からの受注が減少していることから、前年を約20%下回る生産となった。7月の建機用鋳造品は、中国からの受注減少が続いていることなどから、前年を40%程度下回る生産となった。陸船用バルブは、中国などの低価格品との競合が続いていることなどから、前年を25%程度下回る生産となった。

輸送用機械 7月の鋳造品は、トラック用では、タイやインドネシアからの受注が減少しているものの、国内の受注が堅調なため、合計では前年をわずかに上回る生産となった。一方、オイルシールは、国内自動車販売の伸び悩みなどによる在庫調整が続いていることから、合計では計画を5%程度下回る生産となった。

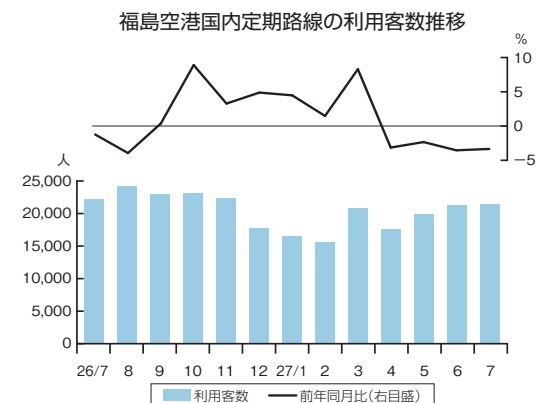
電気機械 7月の電気機械の生産は、誘導炉と配電盤が前年を上回ったものの、変圧器が前年比で60%ほど落ち込んだことなどから、合計では前年を20%程度下回った。

情報通信機械 7月の情報通信機械は、国外向けマイクロ波通信装置（携帯電話の中継局）の生産が横ばいで推移したものの、国内向けモバイル基地局の減産が続いていることから、合計では前年を10%以上下回る生産水準となった。

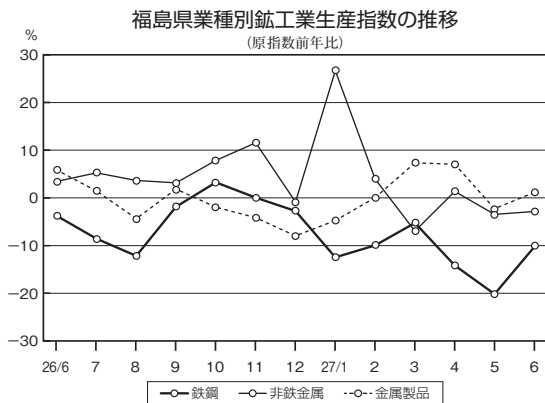
電子部品・デバイス 7月のLSI（大規模集積回路）の生産は、前年を20%程度下回った。



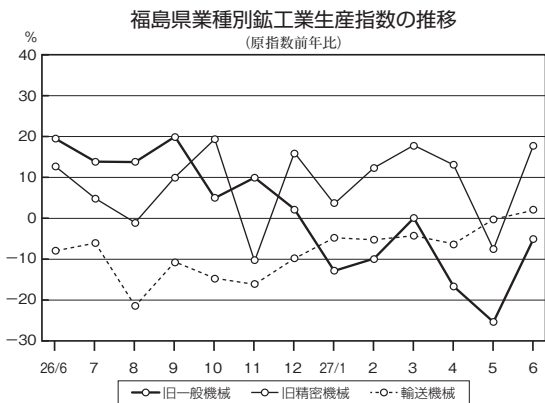
(資料：東日本高速道路(株)東北支社)



(資料：福島県商工労働部空港交流課)



(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県企画調整部統計課)

精密機械 7月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加価値製品および国内向け新製品の生産が堅調に推移しており、合計では前年を10%以上上回る生産水準となった。また、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、国内、国外とも受注が増加したことから、全体では前年を10%ほど上回る生産となった。

窯業・土石 7月の生コンクリート出荷量は、全体で180,162m³（前年同月比+4.2%）と6ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、官公需は白河といわきを除いた4地区が前年を上回り、合計で同+28.6%となった。一方、民需はいわきを除いた5地区が前年を下回ったことから、合計で同△10.9%となった。

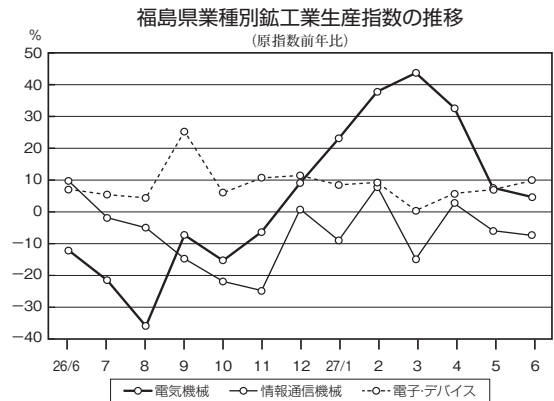
紙・紙加工品 7月の製紙は、感熱紙が前年を30%程度上回ったものの、インクジェット紙などが前年割れとなったことから、合計では前年をわずかに下回る生産水準となった。

清酒 7月の清酒移出数量は、1,020kl（前年同月比+3.2%）と2ヵ月連続で前年を上回った。酒類別では、一般酒（特定名称酒以外の酒）が509kl（同△2.8%）と3ヵ月連続で前年を下回ったが、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）は510kl（同+10.1%）と4ヵ月連続で前年を上回った。

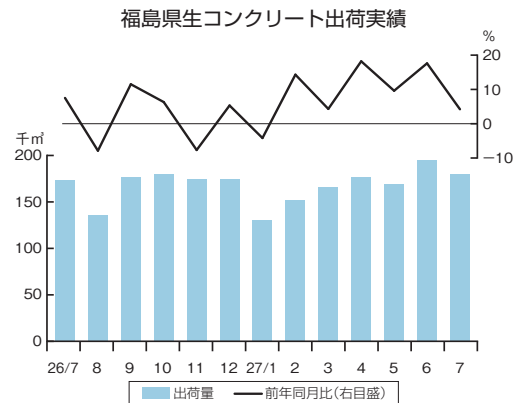
化合繊維物 7月の化合繊維物は、生産量、生産額ともほぼ前年並みの水準となった。

ニット 7月のニットは、新規受注先の増加などから、秋冬物製品の安定した受注量を確保しており、前年をやや上回る生産額となった。

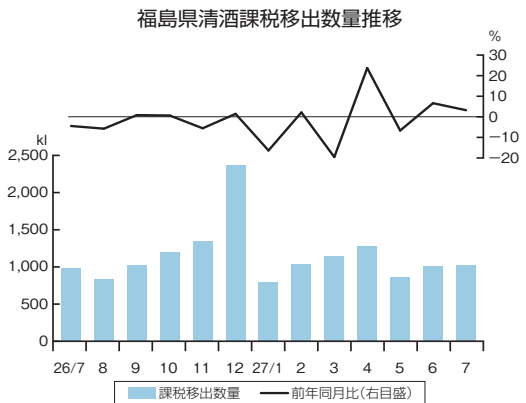
大口電力 7月の大口電力販売量は、516百万kw/h（前年同月比+0.02%）と2ヵ月ぶりで前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で95百万kw/h（前年同月比△12.1%）、「電気機械」で91百万kw/h（同+6.8%）、「輸送用機械」で58百万kw/h（同△3.9%）、「化学」で51百万kw/h（同+2.8%）、「一般機械」で29百万kw/h（同+0.5%）、「紙・パルプ」で26百万kw/h（同+48.1%）となっている。



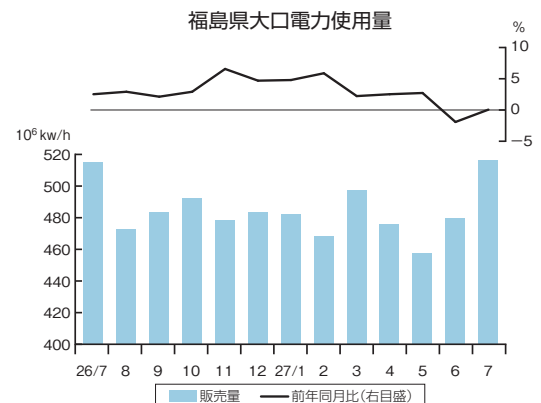
(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)